南会津町 小説の世界を歩く

街とその不確かな壁　村上春樹

・「CJMonmo」2024年6月号掲載記事です。
・情報は2024年5月25日のものです。現在、変更の場合がございますので予めご了承ください。
・記載の読者サービスは使用できません。

著名作家の最新作の舞台？話題の町を訪ねる

国内のみならず、海外にも熱烈なファンを持つ作家・村上春樹氏が、昨年発表した長編小説『街とその不確かな壁』に登場する〝Z＊＊町〟のモデルが、南会津町ではないかと話題になっている。会津若松からローカル線に乗り換え、1時間ほどでたどり着く山あいの町であること、人口が1万5,000人ほどで街なかに図書館や酒蔵があることなどがその理由だが、実は村上氏自身は同町を訪れたことはないという。偶然の一致か、はたまた創作の賜物か。町のそこかしこに散らばる小説の面影を探しながら、南会津町を訪ねてみた。

モダンな建物の中に、図書館、文化ホールや中央公民館、保健センターの4つの機能を有する複合施設「御蔵入交流館」。2004年にオープンして以来、幅広い世代が交流できる空間として活用されている。敷地内には広大な芝生の公園が整備されており、のんびり過ごすのにもぴったり

村上春樹／著
『街とその不確かな壁』（新潮社刊）
672P　2,970円

17歳と16歳の夏の夕暮れ……川面を風が静かに吹き抜けていく。彼女の細い指は、私の指に何かをこっそり語りかける。何か大事な、言葉にはできないことを。高い壁と望楼、図書館の暗闇、古い夢、そしてきみの面影。自分の居場所はいったいどこにあるのだろう。村上春樹が長く封印してきた「物語」の扉が、いま開かれる。

図書館、病院跡、お堂など作品の面影を探して街歩き

まず向かったのは『南会津町図書館』。物語に登場する「Z＊＊町図書館」は酒蔵を改装した建物だが、実際の南会津町図書館は複合施設『御蔵入交流館』の中にある。それでも訪れるファンは後を絶たないそうで、「館内や建物の写真を撮っていく方が多いです」と館長の廣野友一郎さんが教えてくれた。また、町内には大川沿いの風景や「子安観音堂」、石造りの病院跡など小説の世界観を感じられる場所が点在しており、「自分のイメージに合う場所を探すのも楽しいのでは」と商工観光課課長の渡部秀介さん。本を携えて街歩きをすることで、南会津町の新たな魅力にも気が付くかもしれない。

「本をきっかけに町を知ってくれる方が増えてうれしい」と話す、渡部さん（左）と廣野さん（右）

P208より

東京からZ＊＊町までの旅は予想した以上に時間がかかった。水曜日の朝の九時に東京を出て、現地の駅に到着したのは午後二時近くだ。面接の予定時刻は午後三時だ。

東北新幹線で郡山まで行き、そこから在来線で会津若松まで行って、ローカル線に乗り換える。しばらくして列車は山中に入り、それからあとは地形に沿って細かく向きを変えながら、山と山との間を縫うように抜けていく。トンネルも次から次へと現れる。あるものは長くあるものは短い。いったいどこまでこうして山が続くのだろうと感心してしまうほどだ。

主人公が「Z＊＊町図書館」の面接を受けるため、会津若松駅からローカル線に乗り換え1時間ほどでたどり着く…。会津田島駅は会津若松駅から会津鉄道で1時間ほどの場所にある

南会津町図書館

匠南会津郡南会津町田島字宮本東22　☎0241-62-5522
圏10：00～18：00
休毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、毎月末日（土日の場合は翌火曜日）、年末年始
P あり　https://ilisod003.apsel.jp/minamiaizu-library/

1.図書館内には村上春樹作品を集めた特設コーナーを設置し、スタッフ総出で盛り上げている　2.『国権酒造』の隣にある元病院の建物。趣のある石造りの佇まいが、作品に登場する図書館のイメージに近いと写真に収めるファンも多い。夜間はライトアップも行う　3.会津田島駅脇にある「子安観音堂」。物語に登場する人物“子易さん”と読みが同じとあって関連を指摘する声もある

7/22(月)～24日(水)開催

会津田島祇園祭

1.7月23日(火)に行われる神様へのお供え物を運ぶ「七行器行列」。艶やかな花嫁衣装をまとった女性たちが参加し、見物客でにぎわう　2.宵祭の大屋台で行われる子供歌舞伎。時間ごとに「芸場」と呼ばれる家の前で停まり、演目を上演する（1.2写真提供／南会津町観光物産協会）

「祇園祭」は、平安時代に都で流行していた疫病を鎮めようと牛頭天王・スサノオノミコトを祭ったのが始まり。南会津町田島地域には約800年前に伝わり、以来、田出宇賀神社と熊野神社の祭礼として受け継がれている。代表的な催しは大屋台で上演される子供歌舞伎や、七行器(ななほかい)行列、神輿渡御、太々御神楽など。例年7月7日から各神社の参道の御神燈に灯りがともり、街が幻想的な雰囲気に包まれる。

問南会津町観光物産協会　☎0241-62-3000

立ち寄り

手作りの郷土料理が味わえる「ぎおん」（1,380円）

長い伝統が息づく祇園祭の魅力を常設展示

「会津田島祇園祭」の概要や歴史について知ることができる展示館。「七行器（ななほかい）行列」や「子供歌舞伎」の模様が等身大の人形で再現されている他、大屋台のレプリカなど貴重な資料を展示。また、地元の名産品を販売する売店や郷土料理などがバイキングスタイルで楽しめるレストランも併設する。

会津田島祇園会館

所南会津郡南会津町田島字大坪30-1
☎0241-62-5557　時9:00～16:30　料展示館入館料 大人300円、小・中・高生100円　休12月～3月の毎週火曜日、年末年始、冬季臨時休館あり　Pあり　CPayPay
http://gionkaikan.biz-web.jp/

読者サービス／巻末の共通クーポン持参で飲食の方、展示館入館料サービス。

常設展示の大屋台のレプリカは、祭りの際に使われる4台の特徴がすべて盛り込まれた特別仕様

P365より

駅の近くの商店街を歩いているとき、乾物屋と寝具店の間にはさまれた、小さなコーヒーショップを見つけた。その前を何度も歩いていたはずなのに、そんな店が存在していたことになぜかこれまで私は気づかなかった。〈中略〉

私はガラスのドアを開けて中に入った。墓地で冷えきった身体をとりあえず温める必要を感じたからだ。カウンターのいちばん奥の席に座り、熱いコーヒーと、ショーケースに入っていたブルーベリー・マフィンを注文した。

物語の中では、主人公が町のコーヒーショップでブルーベリーマフィンを注文する場面が度々登場する

韓国版を手にする五十嵐さん。中には贈り主が韓国語で綴ったメッセージが書かれている

爽やかな酸味の「ブルーベリーマフィン」(500円)と「ジーママブレンド」(550円)は相性抜群。奥は「街とその不確かな壁」の韓国版

CAFE JI-MAMA（カフェ ジーママ）

所南会津郡南会津町田島字上町甲4004
☎0241-62-8001
時10:00～18:00　休毎週月・火曜日
P8台　CVISA、PayPay、d払い、他
https://ji-mama.com/

読者サービス／巻末の共通クーポン持参で1,000円以上利用の方、会計から100円引きに。

店主も〝ハルキスト〟のカフェや酒蔵をめぐる

『CAFE JI-MAMA』も、主人公が通うカフェに雰囲気が似ているとファンに人気のスポット。遠く韓国から訪れ、記念に韓国版を寄贈してくれた方もおり、店内にはその本が大切に飾られている。「地元の風景が、大好きな作家の小説とリンクしているのは不思議な気分」と話すのは店主の五十嵐大輔さん。ブルーベリーマフィンとコーヒーでほっと一息つけば、物語の主人公がカフェで過ごす時間を追体験できるはずだ。

「CAFE JI-MAMA」の向かいにある『国権酒造』には、物語のキーパーソン〝子易(こやす)さん〟の実家のイメージで訪れたい。代表の細井信浩さんは熱烈な〝ハルキスト〟（村上春樹ファン）。自身も本を読みながら、町の風景をあれこれ思い出したそうで、特に会津田島駅前の描写がお気に入り。「会津鉄道に乗って町を訪れると、より物語の世界に浸れるはず」と太鼓判を押す。

7月22日(月)からは「会津田島祇園祭」が開催され、町が最もにぎわう季節。小説の世界を訪ねながら、伝統ある祭りを楽しんでみては。

創業は1877年。全国新酒鑑評会では幾度も金賞に輝き、代表銘柄「国権」は福島を代表する銘酒として愛されている。趣のある門構えに老舗の風格が漂う

学生時代に村上作品と出合い、以来新作が出るたびに読んでいるという細井社長。「抽象的な文体に惹かれます」とほほ笑む

国権酒造

所南会津郡南会津町田島字上町甲4037
☎0241-62-0036
時9:00～18:00
休毎週土・日曜日
Pあり　CVISA、JCB、PayPay、他
http://www.kokken.co.jp/

P313より

添田さんの話によれば、子易さんはこの町有数の素封(そほう)家の長男として生まれた。年の離れた妹が一人いる。一家は代々造り酒屋を営み、商売は繁盛していた。

物語の中でキーパーソンとなる〝子易さん〟の実家は、Z＊＊町で代々続く酒蔵だった